



まごころを贈り合う

校長 佐藤 恵子

3月17日、第46回卒業証書授与式を行いました。心地よい緊張感の中、卒業生は立派に卒業証書を受け取りました。みんなで伝えた「別れの言葉」、聞く人の心に響かせた「旅立ちの日に」、本当にすばらしかったです。ご多用の中参列していただいた卒業生保護者の皆様、学校運営協議会委員の皆様、お手伝いいただいたPTA役員の皆様、関係の皆様のご尽力に心から感謝申し上げます。

6年生が卒業式練習を始めたのは2月末のことでした。その日から6年生の顔つきが徐々に変わっていきました。学級の絆、学年の絆を再確認し、周囲への感謝と新しい生活への期待が満ちていくような一人ひとりの表情がありました。1～5年生は、「ありがとう集会」や「送る会」の準備をしたりお祝い飾りを作ったりして、6年生に感謝の気持ちを伝え、旅立ちをお祝いしました。卒業式予行に5年生が参加し、本番を想定した緊張感を作ってくれました。卒業式前日には、5年生を中心に会場準備や校舎の清掃を行いました。全校児童みんなが卒業式に関わり、思いを贈る日々を過ごしました。精一杯お祝いしてくれた在校生とその温かさに応えようとする卒業生の心と心のふれあいこそ、良い卒業式にするための大切な要素です。

3月16日に全校児童が集まって行った「6年生を送る会」では、在校生代表児童と卒業生代表児童がメッセージを伝え合いました。一部抜粋して紹介します。

在校生代表より

6年生と取り組んだたくさんの活動の中で一番印象が強いのは、6年生の団結力です。クラブや委員会の活動の前後に6年生は準備と後片付けを協力して進めていました。困ったことがあったらすぐに話し合っ解決策を出してくれました。その団結力はすごいと思いました。また、エイサーや音楽発表会、「旅立ちの日に」の練習でも、「みんなで心を合わせよう」と団結する気持ちがあって、その団結力で新羽小学校を支えてくれたんだと思いました。私たちは4月から6年生になります。卒業生が教えてくれた団結力を大事に、私たちが新羽小学校を引っ張って行きます。卒業おめでとうございました。そして今まで本当にありがとうございました。

卒業生代表より

僕は、もともと自信がなく自分の意見をあまり言えませんでした。2年生の時に自分の意見を言うように心がけると、だんだん言えるようになり、自信がついてきました。4年生になるとなかよし交流で下級生を引っ張る立場になりました。5年生になると初めての委員会で自分から手を挙げて率先しているいろんなことに挑戦しました。6年生になると委員長として委員会をまとめてきました。これらの経験から、失敗を恐れず挑戦することの大切さを知りました。中学生になってもたくさんのことに挑戦していきたいです。在校生の皆さんも4月から新しいことが増えると思いますが、失敗を恐れず挑戦して頑張ってください。皆さんで新羽小をよりよくしてってください。